

# 韓国語の補助動詞 ko malta 形式の意味・用法

—対照言語学的観点から—

鄭 世 桓

はじめに

1. 先行研究
  2. 本動詞maltaの辞書的意味
  3. ko malta形式の形態論的な特徴
  4. ko malta形式における出来事の在り方
  5. ko malta形式における話し手の感情・評価
- 終わりに

## はじめに

本研究の目的は韓国語の補助動詞ko malta形式を対照言語学的観点から分析し、その意味・用法を明らかにすることである。ko malta形式はa pelita形式とともに日本語の補助動詞テシマウ形式に対応する韓国語の補助動詞とみなされるものである。

- [1] 私はケーキを食べてしまった  
[2] 나는 케익을 먹고 말았다  
nanun kheyikhul mekko malassta  
私は ケーキを 食べる-ko malta形式-(過去)
- [3] 나는 케익을 먹어 버렸다  
nanun kheyikhul meke pelyessta  
私は ケーキを 食べる-a pelita形式-(過去)

その対応の頻度はa pelita形式の方がko malta形式より高いため、従来の研究ではテシマウ形式に対応するものとして主にa pelita形式が取り上げられ、ko malta形式との比較分析はそれほど多くはない。しかし、ko malta形式もテシマウ形式に対応する補助動詞として、決してその使用頻度が低いとはいえず、テシマウ形式に対応する一つの補助動詞として重要な位置を占めている。ここではko malta形式を中心として、特にテシマウ形式との対応関係や、a pelita形式との両立関係を通じてその意味・用法を考察することを目的とする。記述するにあたり、分析の対象となるデータは韓国語の用例はKaist Concordance Program<sup>1)</sup>を利用した検索結果によるもの、日本語の用例は『CD-ROM版新潮文庫100冊』(1995)の中で翻訳作品を除いた60作をコンピューター検索によって収集したものである。韓国語の表記に関しては基本的にローマ字<sup>2)</sup>で表記するが、用例はロー

マ字とともにハングルもつけることにする。韓国語の例の日本語訳は筆者が行ったものである。文脈上、文学的な意識を行っている場合があるが、ko malta形式やa pelita形式の部分は基本的に直訳を行い、グロス付けをする。

## 1. 先行研究

(1)Kim, Senghwa (2003)

Kim, Senghwa (2003) では、ko malta形式を「逸脱性終結相」と称し、正常な基準から外れる動作の終結を表わすとした。

- [4] 그는 시험에 떨어지고 말았다  
 kunun sihemey tteleciko malassta  
 彼は 試験に 落ちる-ko malta形式-過去
- [5] \*그는 시험에 합격하고 말았다  
 kunun sihemey hapkyekhako malassta  
 彼は 試験に 合格する-ko malta形式- (過去)

そして [4] の「ttelecita (落ちる)」のように先行動詞が否定的な動作を意味する動詞の場合、ko malta形式との結合は自然であるが、[5] の「hapkyekhata 合格する」のように、肯定的な動作を意味する動詞との結合は、通常正常ではない動作の終結を意味するko malta形式の性質から見て不自然であると述べつつ、[6] のような用例ではko malta形式との結合が可能であるとした。

- [6] 나는 이번 시험에 꼭 합격하고 말테야  
 nanun ipen siheme kkok hapkyekhako malteyya  
 私は今回の試験に必ず合格する-ko malta形式- (意志)

この場合ko malta形式との結合が可能な理由を、Kim, Senghwa (2003) では、この命題での正常な基準が動作主の合格ではなく、不合格することに合わせているからだと説明している。このようなKim, Senghwa (2003) のアプローチはko malta形式と先行動詞の語彙的な意味における評価性との関わりから、その意味・用法を分析しようとしたものであるが、動詞の語彙的な意味における評価性が一般的に肯定的なものであるからといってその動詞が用いられた文そのものも肯定的な意味を表わすとは限らない。例えば、

- [7] 다행히 철수가 합격했다  
tahayngi CHELSWUka hakyekhayssta  
幸いなことに チョルス (人名) が合格した
- [8] 공교롭게도 철수가 합격했다  
kongkyolopkeyto CHELSWUka hakyekhayssta  
あいにくにも チョルスが合格した

同じ「hapkyekhata (合格する)」でも、[7] は話し手にとって肯定的な出来事として、[8] は否定的な出来事として認識されている。「hapkyekhata (合格する)」は「ttelecita (落ちる)」と比べて語彙的な意味として肯定的ではあるが、それはあくまでも語彙レベルであって、Kim, Senghwa (2003) でいう「肯定的な動作」か否かは文の対象となる出来事とその出来事を認識する話し手との関係によって決まるものである。これは、補助動詞の主な役目が動詞に何らかの文法的な意味を助けることであるとしても動詞そのものというより、文の全体的意味における動詞の意味を助けることであることが分かる。そのため、単なる先行動詞の語彙的な意味の評価性で、ko malta形式の意味・用法を明確にすることは無理があるといえる。

(2)I, Miswuk (1995)

Kim, Senghwa (2003) がko malta形式を韓国語学的な立場から論述しているとすれば、I, Miswuk (1995) は日韓対照論的観点から、日本語の補助動詞テシマウ形式と、それに対応するa pelita形式やko malta形式との相関関係について論述している。ko malta形式に関しては文の表わす出来事が無意志的な運動を表わす場合、ko malta形式が用いられるとし、ko malta形式の意味・用法における無意志的な側面に焦点を合わせている。しかし、出来事における意志性の観点から見ると、[9] のようにko malta形式も話し手の意志的動作を表わす文に用いられる場合があり、この場合、動作の実現をせまるという意志・意図がa pelita形式の方より強く感じられる。そのため、ko malta形式に関するI, Miswuk (1995) での分析は局限的な分析であるといえよう。

[9] 범인을 꼭 잡고 말겠다  
 peminul kkok capko malkessta  
 犯人を 必ず 捕まえる-ko malta形式- (意志)

## 2. 本動詞maltaの辞書的意味

内容語が機能語として働くようになる文法化というプロセスには、内容語としての語彙的な意味特徴、つまり辞書的意味が機能語としての意味・用法に何かしらの影響を及ぼす。補助動詞としてのko malta形式を分析するにあたり、ここでは、本動詞としてのmaltaの辞書的意味を見る<sup>3)</sup>。

### 他動

(していることを) やめる (그만두다kumantwuta)、中止 (중지cwungci) する、中断する、止す、放棄 (포기phoki) する：읽다 만 책ilkta man chayk読み止しの本、読み書きの本；사업을 말다saepul~事業を投げる (やめる)；말을 말다malul~話をやめる；말았더라면 좋았을 길malasstelamyen cohassul kelやめておけばよかったものを

本動詞としてのmalta形式の辞書的意味はそれほど多義的ではなく、継続している出来事を終えること、つまり、その意味特徴を「中断」や「中止」という言葉でまとめることができる。しかし、maltaは現代では内容語としての本動詞より、文法化によって文法的

意味を表わす機能語として働く場合が多く、その意味・用法は次のように、どのような連結語尾と結合するか、あるいはどのようにパターン化されるかによって多様な姿を見せる。

助動

- ① (ci maltaの形で用いる) (禁止の意を表して)  
…するな：걱정말아라 kekcengmalala 心配するな
- ② (名詞や形容詞の連用形-a,-e,-yeに付いて) (haci maltaの意を表して)  
…するな：그들은 그녀을 위로하고자, 너무 슬퍼 말라고 했다 kutulun ku nyelul wilohakoce, nemwu sulphe mallako hayssta 彼らはその女性を慰めようと、あまり悲しがりなさんと言った。
- ③ (-kena malkena,-keni malkeni,-na mana,-tunci maltunci, -lka malka,-lci malci などの形で用いる) …しない：들어갈까 말까 잠깐동안 주저했다 tulekalkka malkka camkkantongan cwucehayssta 入るか入るまいかしばらく躊躇した
- ④ (用言の-ta,-taka形に付いて) (…していたが) やめる (그만두다 kumantwuta) : 공부를 하다 말고 kongpwulul hata malko 勉強をしていたのをやめて
- ⑤ (用言の-ko,-koya形に付いて) (その動作・状態が必ず実現することを表して)  
…してしまう：이 일은 꼭 해 놓고야 말겠다 i ilun kkok hay nohkoya malkessta この仕事は必ず仕上げてしまうつもりだ
- ⑥ (-ko malko, -ta malkoの形で用いる) … (する、だ) とも、(もちろん) …する、…だ：가고 말고 kako malko 行くとも
- ⑦ (-ca macaの形で用いる) …するや否や：그 사람을 보자마자 밖으로 뛰어 나갔 ku salamul poca maca pakkulo ttwie nakassta 彼を見るや否や外に飛び出した
- ⑧ (名詞+malkoの形で用いる) …ではなく：윤복이 말고 순나를 만나러 왔대요 YUNPOKi malko SWUNNAIul mannale wasstayyo ユンボク (人名)†じゃなくってスンナ (人名)†に会いに来たんですって
- ⑨ (助詞を伴った副詞に付いて) (否定の意を表して) …ない：더도 말고 덜도 말고 네가 가져 간 만큼만 가져 오면 된다teto malko telto malko neyka kacye kan mankhumman kacye omyen toynta より多くもなくより少なくもなく君が持って行ったのと同じだけ持って来ればいい

※「†」は筆者

この中、①と②は常に命令文の形で「禁止」を、③は動作の「否定」、④は動作の「中止」を表わし、本動詞の「中断」および「中止」という意味特徴が文法的意味として忠実に反映されている。しかし、動詞maltaの文法化はこれにとどまらず、さらに本研究の研究対象である⑤や、補助動詞というよりほぼ助詞や語尾の性質に近い用法としての⑥から⑨まで進んでいく。ここで注目すべきことは、①から④までは出来事の実現を「中断する」および「中止する」という、本動詞の打消しの性質が忠実に反映されているのに対して、⑤から⑨まではその文法化の様相が変わり、逆に出来事の実現を強調する意を表わすこととなるということである。そのため、maltaは文法化が非常に進んでいるものであるとい

えよう。

### 3. ko malta形式の形態論的な特徴

ko malta形式と組み合わせる先行動詞の語彙的な意味に関しては、主動客変動詞を始め、主動動詞、主変動詞、情態動詞など、時間の流れにそって生起する出来事を意味する動詞であれば〔表1〕のように結合は可能となる<sup>4)</sup>。

〔表1〕 ko malta形式と結合する動詞の種類

結合可否	動 詞	用 例	
結合可能	主動客変動詞	만들다 mantulta (作る)	만들고 말다 mantulko malta
	主動動詞	먹다 mekta (食べる)	먹고 말다 mekko malta
	主変動詞	죽다 cwukta (死ぬ)	죽고 말다 cwukko malta
	情態動詞	질리다 cillita (飽きる)	질리고 말다 cilliko malta
	受身動詞	물리다 mwullita (かまれる)	물리고 말다 mwulliko malta
	使役動詞	읽히다 ilkhita (読ませる)	읽히고 말다 ilkhiko malta
結合不可能	静態動詞	있다 issta (ある・いる)	*있고 말다 issko malta
	可能表現	먹을 수 있다 mekul swu issta (食べることができる)	*먹을 수 있고 말다 mekul swu issko malta

a pelita形式と明確に区別されるko malta形式の特徴はその形からもわかるように、先行動詞とのつなぎ目となる連結語尾がa pelita形式は「a」をとるのに対して、ko malta形式は「ko」をとることである。この中で最も補助動詞の連結語尾として用いられるのは「a」であり、a pelita形式以外にa issta形式（結果状態の継続）、a twuta形式（テオク形式）、a pota形式（テミル形式）、a cwuta形式（テアゲル形式／テクレル形式）などがある。それに対して、「ko」の場合はko malta形式以外にko issta形式（動作の継続）とko siphta形式（希望）しかない。これらの構成について、Kim, Senghwa (2003) は、「a」は「密接性」を表わす連結語尾であり、「ko」は「対等性」を表わす連結語尾であるとした。そして、「a」は本動詞としての意味が抽象化され、先行動詞の意味内容に緊密に関わるものであるのに対して、「ko」はその補助動詞が本動詞の抽象化によって生じるものというより、独自の意味機能を持ちつつ、先行動詞と関わるものであると述べている。この二つの補助的連結語尾はもともと従属的連結語尾としても働くものであり、この場合、「密接性」や「対等性」の性質が明確に現われる。

- [10] 밤새 눈이 내려 길은 미끄러웠다  
pamsay nwuni naylye kilun mikkulewessta  
夜通し雪が降って、道は滑った
- [11] 아버지는 요리를 하고 어머니는 TV를 본다  
apecinun yolilul hako emeninun TV lul ponta  
父は料理をして母はTVを見る

二つの文を連結する従属的連結語尾として [10] は「a」を、[11] は「ko」をとっており、それに対応する日本語の接続助詞として「て」が使われている。しかし、同じ「て」に対応できるものであるとしても、[10] は前節の文と後節の文が原因-結果の仕組みをなしているのに対して、[11] は前節の文と後節の文が同時動作として単に出来事を羅列したものである。そのため、[10] は前節の文と後節の文を入れ替えて表現することができないが、[11] の場合は入れ替えることも可能である。このように前節の出来事と後節の出来事の関係が因果関係で緊密に関わっている場合は、従属的連結語尾として「a」を用いるのに対して、前節の出来事と後節の出来事の間は何の関連性もなく単に羅列する際には「ko」が用いられるのである。このような従属的連結語尾に見られる「密接性」や「対等性」を補助的連結語尾として働く「a」や「ko」に当てはめることにはやや無理はあるが、この二つの補助的連結語尾が先行動詞と結合する際、どちらが動詞としての性質をより強く保っているかを考えてみることで、その先行動詞との密接性の度合いを述べることはできる。この問題に関して焦点をa pelita形式とko malta形式に戻して考えてみると、これらの形式に+は次のような形態論的な違いが見られる。

まず、a pelita形式は二重補助動詞として、動作の継続というアスペクトの意味を表わすko issta形式と結合することができるが、ko malta形式は不可能である。

[12] 노면 위에 떨어지는 눈송이들은 땅에 부딪치자마자 그대로 녹아 버리고 있었다.

nomyen wiye ttelecinun nwunsongitulun ttangey pwuticchicamaca kutaylo nokapeliko issessta.

路面の上に落ちる雪は土にぶつかるたんそのまま解ける-a pelita形式-ko issta形式- (過去)。

[13] \*노면 위에 떨어지는 눈송이들은 땅에 부딪치자마자 그대로 녹고 말고 있었다.

\* nomyen wiye ttelecinun nwunsongitulun ttangey pwuticchicamaca kutaylo nokko malko issessta.

路面の上に落ちる雪は土にぶつかるたんそのまま解ける-ko malta形式-ko issta形式- (過去)。

二重補助動詞としてa pelita形式がko issta形式をとるのは、動詞の語彙的な意味と関わっており、pelitaは本動詞として元々ko issta形式しかとらないものであるからである。それに対して、ko malta形式のmaltaは前述したように、現代ではほぼ機能語として定着しているため、二重補助動詞としての結合可否の判断が大変難しいものでもある。もう一つの二重補助動詞の仕組みとして、a pelita形式とko malta形式はこの二つの形式がさらに相互結合してテシマウ形式に対応する場合がある。この際、a pelita形式が先行してko malta形式が後続するa peliko maltaの形は可能であるのに対して、ko malta形式が先行してa pelita形式が後続するko mala pelitaの形は不可能である。

[14] 상대방에게 일시에 집중적으로 고통을 가하면 제아무리 강철 같은 의지를 지

넌 자라 해도 금방 무너져 버리고 만다.

sangtaypangeykey ilsiey cipcwungcekulo kothongul kahamyen ceyamwuli kangchel kathun uycilul cinin cala hayto kumpang mwunecye peliko manta.

相手がいっぺん集中的に苦痛を加えるといくら鋼鉄のような意志を持っている者であってもすぐ倒れる-a pelita形式-ko malta形式。

- [15] \*상대방에게 일시에 집중적으로 고통을 가하면 제아무리 강철 같은 의지를 지닌 자라 해도 금방 무너지고 말아 버린다.

\*sangtaypangeykey ilsiey cipcwungcekulo kothongul kahamyen ceyamwuli kangchel kathun uycilul cinin cala hayto kumpang mwuneciko mala pelinta.

相手がいっぺん集中的に苦痛を加えるといくら鋼鉄のような意志を持っている者であってもすぐ倒れる-ko malta形式-a pelita形式。

このように、テシマウ形式に対応するこの二つの形式がさらに二重補助動詞として存在する際、a peliko mataの形しか存在しないとすれば、先行動詞との位置関係から見ても ko malta形式より a pelita形式の方が先行動詞により近いため密接度が高いといえる。

#### 4. ko malta形式における出来事の在り方

鄭 (2006 a) ではテシマウ形式における出来事の在り方を出来事へのコントロール性や人称性、文の成分との関わりを根拠にして次のように分類した。

- 【1】始末をつけるべき出来事：私はリンゴを全部食べてしまった。
- 【2】無意図的な出来事：私は思わずリンゴを食べてしまった。
- 【3】予想外・期待外の出来事：私は試験に落ちてしまった。

テシマウ形式が ko malta形式と対応関係にあることには、このような出来事の在り方が次のように ko malta形式にも見られるからである。

##### (1)始末をつけるべき出来事

主体による動作がある出来事への始末をつける行為、つまりある出来事に対して一段落をつける行為であることを表わす場合である。

- [16] “내가 죽은 후 반듯이 네게 원수를 갚을 것이야. 너를 내 손으로 죽이고 말 것이다.”

“nayka cwukun hwu pantusi neykey wenswulul kaphul kesita. nelul nay sonulo cwukiko mal kesita.”

私が死んだ後、必ずお前に復讐するんだ。お前を私の手で殺す-ko malta形式-(意志)。

- [17] 전 세계에 우리 조직원이 깔려 있기 때문에 너는 아무데도 몸을 숨길 수가 없어. 우리는 지구 끝까지 쫓아가 헤로인을 찾아내고 말테야.

censeykyeyey wuli cocikweni kkallye isski ttaymwuney nenun amwuteyto momul swumkil swuka epse. wulinun cikwu kkuthkkaci ccochaka heyloinul

chacanayko malkeya.

全世界に我々の組織員がたくさんいるために、お前はどこにも身を隠すことができない。我々は地球の隅々まで追いかけてヘロインを見つける-ko malta形式-(意志)。

- [18] “전 여기 있습니다. 여기 남아서 그 연놈을 잡고야 말겠습니다. 여기를 모두 떠나면 그 연놈은 누가 잡겠습니까?”

“cen yeki issupnita. yeki namase ku yennomul capkoya malkessupnita. yekilul motwu ttenamyen ku yennomun nwuka capkessupnika?”

“私はここにあります。ここに残って彼らを捕まえる-koya malta形式-(意志) - (丁寧)。ここをみんな立ち去ると、彼らを誰が捕まえますか?”

文の特徴としてko malta形式が「~keya」「~kesita」「~kessta」など、話し手の意志を表わす文に使われた場合は、始末をつけるべき出来事への実行を表わし、おおむねa pelita形式と入れ替えることができる。しかしa pelita形式に入れ替えても出来事の在り方として始末をつけるべき出来事として認識する点では同様であるが、ko malta形式の方がa pelita形式より出来事の実現への意気込みが強そうに感じられる。それは例 [22] と例 [23] のように、ko malta形式の出来事を実行することがそれほど容易ではない場合(例えば、例 [22] は話し手が死んだ後であれば、普通では「お前」という人物を殺すことができないはずであるが、それでも必ず殺すつもりであると言っている。)や、例 [25] のように、何らかの理由で話し手がko malta形式の出来事をやらざるを得ない状況に追い込まれている場合(話し手もその場を離れることになってしまえば、「彼らを捕まえる」という出来事ができないため、話し手がやるしかない状況におかれている)など、話し手の意志的な出来事であるとしてもそのきっかけが非自律的に生起する出来事である場合にko malta形式がよく用いられる。そしてko malta形式の出来事を実行することは一連の事態を終わりにすることというテクス的な意味が感じられる。テシマウ形式との対応関係から見ると、例 [19]、例 [20] のように、限定された時間内に出来事を実行しようとする切実さがある場合はko malta形式に対応することが可能である。

- [19] 「敵も疲れておる。疲れは互いだ。こうなれば励む側が勝つ。しゃにむに突撃してきよの昼までにあの城を踏み砕いてしまうぞ」(国盗り物語)

- [20] 「こんなことは、年が明ける前にいってしまった方がいいと思うからいうんだけど、僕ね、あんた達みんなに一つお願いがあるんだよ。というのは、あんた達、働きに出るのはいいけれども、出る前に僕に一と言、相談してみてくださいかな。…略…」(帰郷)

しかし [21] のように一連の事態を終わりにするとしても、それほど「片付ける」ことへの切実さがない場合はa pelita形式とは結合可能であるのに対して、ko malta形式との結合は不自然に感じられる。

- [21] 「三十分ほど待ってくれないか、この仕事を片付けてしまうからな。帰り道で、



焼酎でも呑もうや」(樹々は緑か)

(2)話し手の無意図的な出来事

出来事が自分の意図とは関係なく起こったこと、つまり、本来ならコントロールできるはず、あるいはコントロールすべき出来事であるのに、コントロールできなかったこととして捉えられる場合である。

- [22] 언젠가 한번은 서울에서 나와 동행한 친척 동생이 택시 기사에게 큰 돈을 미리 내고 내린 적 있는데 막상 목적지에 도착하여 아직 절반도 더 남은 거그름돈을 받으려고 하니 먼저 내린 손님이 이미 장돈을 받아 갔다며 하도 그럴싸하게 시치미를 떼는 바람에 얼떨결에 그냥 내리고 말았다.

enceynka hanpenun SEWUleyse nawa tonghaynghan chinchek tongsayngi thayksi kisaeykey khun tonul mili nayko naylin cek issnuntey maksang mokcekciey tochakhaye acik celpanto te namun kesulumtonul patulyeko hani mence naylin sonnimi imi cantonul pata kasstamyehato kulelssahakey sichimilul tteynun palamey elttelkyeley kunyang nayliko malassta.

いつかある日ソウルで私と年下の親戚とタクシー運転手に多くのお金を前もって払って降りたことがあるが、目的地に到着してまだ半分も残っているお釣りをもらおうとしたら、先に降りた客がすでにお釣りをもらっていったと上手にとほけたせいでついうっかりそのまま降りる-ko malta形式-(過去)

- [23] 다만, 시트를 걸어젖히고 일어나 창문을 활짝 열고 신선한 공기를 호흡하려 했을 때 나는 나도 모르게 이렇게 중얼거리고 말았다. 광웅혁...

taman, sithulul ketecechiko ilena changmwunul hwalccak yelko sinsenhan kongkilul hohuphalye hayssul ttay nanun nato molukey ilehkey cwungelkeliko malassta. KWAKWUNGHYEK...

ただ、シートを押し開けて、立って窓をいっぱい開け放して新鮮な空気を吸おうとしたとき、私は思わずこのようにつぶやく-ko malta形式-(過去) クァクウンヒョク(人名)...

この場合、共起する文の成分として「elttelkyeley(うっかり)」「kunyang(つい)」「nato molukey(思わず)」など無意志的な出来事であることを示す連用修飾語との共起が多い。この場合も a pelita形式との入れ替えには問題はないが、ko malta形式が用いられる場合は、何らかの影響を受けること( )によって無意図的な出来事が生じたことと認識する場合によく使われる。従って、例 [24] のように、「話す」という出来事の生起と「お酒を飲む」という出来事の生起とは相互に無関係であり、単なる無意志的な出来事を表わす場合には、ko malta形式との結合は相応しくなく、a pelita形式の方が自然となる。

- [24] “정화는 죽었어요. 누가 죽었는지 혹시 알고 계세요?” 나는 이 말을 하면서

영겁결에 술을 훌쩍 마셔 버렸다. 그가 다시 술을 따르며 말했다. “미스 허는 자살한 것 아닌가?”

“CENGHWAnun cwukesseyo. nwuka cwukeysnunci hoksi alko kyeyseyyo?” nanun i malul hamyense engkepkyeley swulul holccak masye pelyessta. kuka tasi swulul ttalumye malhayssta. “MISS HEnun casalhan kes aninka?”

“チョンファ (人名) は死にました。誰が殺したのか、もしかして知っていますか” 私はこの話をしながら、思わず酒を一気に飲む-a pelita形式- (過去)。彼が再び酒を注ぎながら話した。“ミスホ (人名) は自殺したのではないか?”

### (3) 予想外・期待外の出来事

出来事の成立が話し手にとって予想したことや期待していたことから外れる出来事であると認識され、元々話し手によるコントロールが不可能な出来事として認識される場合である。

[25] “…略…어느 여름이야. 햇벌이 쨍쨍 쪼고 비는 오지 않고 해서 목이 무척 땀어. 그런데 내가 가꾸던 아기 고추나무가 견디다 못해 말라 죽고 말았단다.…略…”

“…略…enu yelumiya. hyaspyethi ccayngccayng ccoyko pinun oci anhko hayse moki mwuchek thasse. kulentey nayka kakkwuten aki kochwunamwuka kyentita moshay malla cwukko malasstanta.…略…”

“…略…ある夏だった。日差しが強く射し、雨は降らず喉がとても渴いた。ところが、私が育てていた赤ちゃんの唐辛子の木が耐えられず、枯れて死ぬ-ko malta形式- (過去)。…略…”

[26] 생각해 보면 그는 S 전문학교에 온 뒤로 아직 아무하고도 말다툼 한번 한 일 없건만 모든 사람과 마음속으로 미워하고 서로 멸시하고 두고 보자는 듯이 으르렁거리는 것 같던 형세가 되고 만 것이다.

sayngkakhay pomyen kunun S cenmwunhakkyoey on twilo acik amwuhakoto maltathwum hanpen han il ebskenman motun salamkwa maumsokulo miwehako selo myelsihako twuko pocanun tusi ululengkelinun keskathun hyengseyka toyko man kesita.

考えてみれば、彼はS専門学校に来てからまだ誰とも口喧嘩一度したことがないが、みんなと心で憎み合い、蔑視し合うなど、ざまみろという感じで争うようなことになる-ko malta形式- (説明)。

ここで見られる a pelita形式との違いは ko malta形式が用いられる文、或いはテキストの仕組みからその答えを得ることができる。テキストにおける出来事の流れの中で、一連の出来事といっても個々の出来事を単純に列挙するものではなく、特に次のように因果関係 (例 [27]、例 [28]) や逆説関係 (例 [29]、例 [30]) など、個別的な出来事が相互連結し合って生起する一連の出来事で、最後の結果にあたる出来事を表わす際に ko malta形式がよく使われていることが分かる。

【因果関係】

- [27] 그의 말은 상당히 직선적이면서도 논리정연했어. 거부할 수 없는 카리스마가 있었지. 나는 결국 수락하고 말았지.

kuuy malun sangtanghi ciksencekimyenseto nonlicengyenhaysse. kepwuhal swu epsnun khalisumaka issessci. nanun kyelkuk swulakhako malassci.

彼の話は非常に直線的でありながら、論理的だった。拒否できないカリスマがあったんだよ。私は結局受諾する-ko malta形式-（過去）。

- [28] 회사의 담당자는 그 많은 사람들의 발신지를 모두 기록해 두었다가는 컴퓨터가 폭발하고 말 것이라고 통명스럽게 말하곤 끊어 버렸다.

hoysauy tamtangcanun ku manhun salamtuluy palsincilul motwu kilokhay twuesstakanun kemphywutheka phokpalhako mal kesilako thwungmyengsulepkey malhakon kkunhe pelyessta.

会社の担当者はその多くの人たちの発信地をすべて記録しておく、パソコンが爆発する-ko malta形式-（未来連体修飾）-（推測）-（引用）適当に言って切ってしまった。

【逆説関係】

- [29] 이 사실을 엄중히 감추고 있었지만 육개월 뒤 명성황후에게 이 일을 들키고 말았었다.

i sasilul emcwunghi kamchwuko issessciman ywukkaywel twi MYENGENGhwanghwueykey i ilul tulkhiko malassessta.

この事実を厳重に隠していたが、六ヶ月後ミョンソン皇后にこのことをがばれる-ko malta形式-（大過去）。

- [30] 고죽은 말리는 그를 억지로 앞세우고 시립도서관으로 향했다. 그 책임자를 달래 그곳에 있는 권학문 한쪽을 되겨뒤들이기 위해서였다. 그러나 결국 거기서 일은 벌어지고 말았다. 융통성없는 관장과 언성을 높히다가 혼절해 버린 것이었다.

KOCWUKun mallinun kulul ekcilo aphseywuko siliptosekwanulo hyanghayssta. ku chaykimcalul tallay kukosey issnun kwenhakmwun hanphokul toyketwetuliki wihayseyessta. kulena kyelkwuk kekise ilun peleciko malassta. ywungthongsengepsnun kwancangwa ensengul nophitaka honcelhay pelin kesiessta.

코죽 (人名) は止める彼を無理矢理つれて市立図書館へ向かった。その責任者をけしかけてそこにある勸学文一つを取り戻すためだった。しかし、結局そこで事故は起きる-ko malta形式-（過去）。融通のきかない館長と口喧嘩しているうちに気を失ってしまったのだ。

これに対して、例 [31] のように一連の出来事の中で結果として生起する最後の出来事ではなく、結果に至るまでの過程として生起する出来事を表わすときにko malta形式を使

うと、非文になるか、それとも落ち着きのよくない文やテキストになってしまう。

- [31] 그러나 한번 사랑에 빠져버리면 우리는 이내 비정한 쾌감과 잔혹한 이기에 휘몰려 그 모든 걸 잊게 되고 마는 것이다.

kulena hanpen salangey ppacyepelimyen wulinun inay picenghan  
khoaykamkwa caninhan ikiey hwimollye ku motun kel ickey toyko manun  
kesita.

しかし、一回恋に落ちるa pelita形式- (仮定) 我々はすぐ非情な快感と残酷な利己に陥ってすべてのことを忘れるようになってしまうのだ。

このように最後の結果的な出来事の生起で、一連の事態がまとめられる、或いは終わりの局面に達することを強調するテキスト的な機能がko malta形式にあるといえる。これを本動詞maltaの意味特徴と関連付けると、本動詞としてのmaltaは出来事を終わりにするという「中止」或いは「中断」という意味特徴を持っており、このような本動詞の意味が文法化を経て補助動詞としてのko malta形式に一連の出来事の中での「結果的なまとめり」として現れると思われる。それ故に条件文や原因結果を表わす文など、複文の中で、従属節ではなく主節によく用いられ、特に「kyelkuk (結局)」「kkuthnay (最後に)」「machimnay (いよいよ)」など、結果的出来事であるという意味を助ける結果的連用修飾語との共起が目立つ。

以上のようにko malta形式はテシマウ形式や、a pelita形式と共通の出来事の在り方を有しつつ、非自律的に生起する出来事や、一連の事態の終わりとして認識される場合にはko malta形式が相応しいため、a pelita形式と比べて、使用範囲が限定されている傾向が見られる。このようなko malta形式の特徴は、先行動詞との結合関係でもa pelita形式と区別される場合がある。

- [32] 그런데 왜? 그런 생각을 하며 차창으로 지나는 사람들으니 모습을 바라보고 있었다. 그 순간 나는 깜짝 놀라고 말았다. 놀이었다. 순간처럼 지나간 차창의 사람들 사이에서 그는 나를 바라보고 있었다.

kulentey way? kulen sayngkakul hamye chachangulo cinanun salamtuluy  
mosupul palapoko issessta. ku swunkan nanun kkamccak nollako  
malassta. nomiessta. swunkanchelem cinanun chachanguy salamtul  
saieyse kunun nalul palapoko issessta.

どうして? と思いながら車の窓に映る人たちの姿を眺めていた。その瞬間私はびっくりする-ko malta形式- (過去)。奴だった。瞬間的に窓に映る人の間から彼は私を眺めていた。

- [33] 그러나 마을까지 내려간 상육은 거기서 한점 더 가슴이 섬뜩해지고 말았다. 사고는 아침에 미리 본부에 보고가 되어온 대로였다. 한민이라는 중앙리 독신사 청년이 밤사이에 약을 먹고 절명한 것이었다.

kulena maukkaci naylyekan SANGWUKun kekise hancem te kasumi  
semttukhayciko malassta. sakonun achimey mili ponpwuey pokoka toyeon

tayloyessta. HANMINilanun CWUNGANGLI TOKSINSA chengnyeni pamsaiey yakul mekko celmyenghan kesiessta.

しかし、町に行ったサンウク（人名）はそこでもう一度ぞっとする-ko malta形式-（過去）。事故は朝前もって本部に報告された通りだった。ハンミン（人名）というチュンアンリドクシンサ（地名）の青年が夜、薬を飲んで絶命したのである。

[34] …略…상욱은 그만 어안이 병병해지고 말았다. 무모하리만큼 엄청난 계획이었다.

…略…SANGWUKun kuman eani pengpenghayciko malassta. mwumohalimankhum emchengnan kyeyhoykiessta.

…略…サンウク（人名）は途方にくれる-ko malta形式-（過去）。無謀とっていいほどすごい計画だった。

例 [32] と例 [34] のように、ko malta形式は話し手の意志とはまったく関係なく自発的に生起する感情や、知覚、感覚を意味する動詞と、自然に結合可能であるのに対して、a pelita形式との結合は不自然である。感情・知覚・感覚の生起とは何らかの原因によって生じてくる結果的なものでありながら、かつ非自律的に生起する出来事であるといえる。そのため、非自律的に生起する出来事でありながら、一連の事態における終わりの段階として認識される出来事を表わすko malta形式とは結合可能となることが分かる。

以上のようなことから、ko malta形式は鄭（2006 a）で提示した三つの出来事の在り方として認識される場合に用いられるものであるが、a pelita形式と比べ、一連の事態がまとめられるというテキスト的機能がより強いものであることが分かる。

## 5. ko malta形式における話し手の感情・評価

鄭（2006 a）では、テシマウ形式における話し手の感情・評価に関して、出来事の生起が出来事の関与者にどのような影響を及ぼすかによって生じる副次的なものであるため、必ずしも必要十分条件のような側面ではないとしたが、ko malta形式はテシマウ形式やa pelita形式に比べて、話し手の感情・評価が現れる場合が多い。これはko malta形式が表わす出来事が非自律的に生起する出来事であるため、何らかの影響が話し手、あるいは話し手以外のものに及びやすい出来事であるからである。特に非自律的であるがゆえに、話し手の肯定的な感情・評価より、次のように遺憾や、罪悪感、心配、咎め立てなど、話し手の否定的感情・評価が主を成している。

### 【1】遺憾の感情・評価

[35] 그후로 자주 만나 뵈지는 못하고, 너에게 아버지의 성을 물려주고 싶어 자주 청원을 하였지만, 끝내 그 소망을 이루지 못하고 너를 사생아로 만들고 말았  
는 것.

kuhwulo cacwu manna poypcinun moshako neeykey apeciuy sengul mwullyecwuko siphe cacu chengwenul hayessciman, kkuthnay ku somangul ilwuci moshako nelul sasayngalo mantulko malasstanun kes.

それからよく会うことはできず、君に父親の姓をつけてあげたくてよく申し出を出したりしたが、結局その願いは叶えられず、君を私生児にさせる-ko malta形式-(過去連体修飾) こと。

【2】謝罪の感情・評価

[36] “죄송합니다. 나도 모르게 버릇없는 말을 해서. 당신의 아버지라는 것을 잊고 말았어요. 용서하세요.” “아니, 신경쓸 거 없어요”

“coysonghapnita. nato molukey pelusepsnun malul hayse. tangsinuy apecilanan kesul kuman icko malasseyo. yongsehaseyyo.” “ani, sinkyengssul ke ebseyo.”

“申し訳ございません。思わず失礼なことを言って、あなたのお父さんだということを忘れる-ko malta形式-(過去)。お許してください。” “いや、気にしなくていいです。”

【3】心配の感情・評価

[37] 회사의 담당자는 그 많은 사람들의 발신지를 모두 기록해 두었다가는 컴퓨터가 폭발하고 말 것이라고 통명스럽게 말하곤 끊어 버렸다.

hoysauy tamtanganun ku manhun salamtuluy palsincilul motwu kilokhay twuesstakanun kemphywutheka phokpalhako mal kesilako thwungmyengsulepkey malhakon kkunhe pelyessta.

会社の担当者はその多くの人たちの発信地をすべて記録しておくこと、パソコンが爆発する-ko malta形式-(未来連体修飾)-(推測)-(引用) 適当に言って切ってしまった。

【4】咎め立ての感情・評価

[38] “…略…용서해 주십시오.” “내 아내는 정신병원에 입원해 있고, 우리 집안은 풍지박산되고 말았어. 더구나 네놈은 내 아들까지 납치해갔어. 차가운 바닷물 속에 아들을 처넣기까지 했지…略…”

“…略…yongsehay cwusipsio.” “nay anaynun cengsinpyengweney ipwenhay issko, wuli cipanun phwungcipaksantoyko malasse. tekwuna neynomun nay atulkkaci napchihaykasse. chakawun patasmwul sokey atulul cheynehkikkaci hayssci…略…”

“…略…お許してください。” “俺の家内は精神病院に入院していて、家はめっちゃくちやになる-ko malta形式-(過去)。しかもてめえは俺の息子まで拉致した。冷たい海の中に息子を投げ捨てることまでした。…略…”

終わりに

以上、ko malta形式の意味・用法について、テシマウ形式やa pelita形式との対照を中心に分析した。まず、本動詞maltaは現代では本動詞として使われる頻度が低く、ほとんど機能語として働くことが多い点や、二重補助動詞としての継続相 (ko issta形式) との

結合が不可能な点、そしてa pelita形式とko malta形式がさらに相互結合してテシマウ形式に対応する場合があるが、その際、ko malta形式よりa pelita形式の方が先行動詞との位置関係が近いこと、a pelita形式の方がko malta形式より先行動詞との密接度が高いことを指摘した。ko malta形式における出来事の在り方の側面に関しては、テシマウ形式やa pelita形式と共通の側面を有するが、出来事の生起が非自律的、かつ一連の事態の中で終わりの段階として認識される場合、a pelita形式よりko malta形式を用いることが相応しいとした。最後に、ko malta形式における話し手の感情・評価の側面に関しては、非自律的、かつ終わりの段階の出来事を表わす場合が多いため、a pelita形式より話し手の感情・評価が受けやすく、しかも主に否定的な感情・評価が主を成していることが分かった。

本研究ではko malta形式に焦点を合わせて分析したが、本動詞maltaは前述したように、シマウやpelitaとは異なり、現代では機能語として働く場合が多く、その中には動詞的性質も保っているものから、助詞や語尾のように動詞性を失っている意味・用法も存在する。そのため、今後の課題として、maltaにおける文法化を通時的観点から分析し、機能語として見られるmaltaの多様な意味・用法間の相関関係を明らかにすることが求められる。

## 注

- 1) <http://gensum.kaist.ac.kr/kcp/>
- 2) Yale Romanization System(Martin, S)に従う。

子 音		母 音	
韓国語	ローマ字	韓国語	ローマ字
ㄱ	k	ㅏ	a
ㄴ	n	ㅑ	ya
ㄷ	t	ㅓ	e
ㄹ	l	ㅕ	ye
ㄴ	m	ㅗ	o
ㅍ	p	ㅛ	yo
ㅅ	s	ㅜ	wu
ㅇ	ng	ㅠ	ywu
ㅈ	c	ㅡ	u
ㅊ	ch	ㅣ	i
ㅋ	kh	ㅞ	ay
ㅌ	th	ㅟ	yay
ㅍ	ph	ㅝ	ey
ㅎ	h	ㅝ	yey
ㄱ	kk	ㅘ	wa
ㄷ	tt	ㅙ	oy
ㅍ	pp	ㅚ	we
ㅍ	ss	ㅜ	way
ㅍ	cc	ㅟ	wey
		ㅜ	wi
		ㅟ	uy

- 3) 『朝鮮語大辞典』(大阪外国語大学朝鮮語研究室編、角川書店)を参考にしたものである。引用において辞書に書いてある通りに引用することを原則とするが、次のような事項は記述の便宜上変更する。まず日本語につけられている振り仮名は省略する。そして一つの意味に複数の用例が

上げられている場合は適切だと判断されるもの一つだけを取り上げることにする。また、韓国語で書かれている場合は本稿の記述法に従ってYale式で表記する。

- 4) 主動客変動詞は主体の動作によって客体が変化を蒙ることを意味する動詞、主動動詞は客体の変化とは関係なく、動作の仕方や、様態など、主体の動作だけを意味する動詞、主変動詞は主体が変化を蒙ることを意味する動詞、情態動詞は人間の心理的、かつ生理的状态など人間の内的な認識を意味する動詞を指す。

## 参考文献

### 【日本語の文献】

- 奥田靖雄 (1968) 「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」(言語学研究会編 (1983) に所収)  
奥田靖雄 (1988) 「時間の表現(1)」『教育国語』94号  
奥田靖雄 (1988) 「時間の表現(2)」『教育国語』95号  
奥田靖雄 (1994) 「動詞の終止形(3)」『教育国語』第2期 13号  
北原博雄 (1999) 「日本語における動詞句の限界性の決定要因—対格名詞句が存在する助動詞のアスペクト論—」黒田成幸・中村捷編『ことばの核と周縁—日本語と英語の間—』くろしお出版  
金水敏 (2000) 「時の表現」『日本語の文法2 時・否定ととり立て』岩波書店  
金田一春彦 (1950) 「国語動詞の一分類」『言語研究』15 (金田一春彦編1976所収)  
工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房  
言語学研究会編 (1983) 『日本語文法・連語論 (資料編)』むぎ書房  
鄭世桓 (2004) 「テシマウ形式とアスペクトとの関わり—動詞の限界性に基づいて—」『東北大学留学生センター紀要』第8号  
鄭世桓 (2005 a) 「日本語補助動詞テシマウ形式の意味・用法—日韓の捕縄動詞の対照に基づき—」言語処理学会第11回年次大会 発表論文集  
鄭世桓 (2005 b) 「文脈的環境から見た韓国語の補助動詞「아 버리다形式」の意味・方法—現実世界の出来事のあり方に対する話し手の捉え方を中心に—」第52回朝鮮学会大会予稿集  
鄭世桓 (2006 a) 「テシマウ形式のモダリティの意味構造」『日語日文学研究 第59輯』韓国日語日文学会  
鄭世桓 (2006 b) 「日本語動詞の限界性による動詞分類」『国際文化研究』第13号

### 【韓国語の文献】

※著者の名前のアルファベット順 (アルファベットはYale式に従ったものである)

- I, Kitong 이기동 (1976) 「조동사의 의미 분석」『문법 연구』  
I, Miswuk 이미숙 (1995) 「현대 일본어에 있어서의『してしまう』에 대한 고찰—대응하는 한국어와의 대조를 통하여」『일어일문학연구』한국일어일문학회  
He, Wung 허웅 (1983) 『국어학』샘문화사  
Kim, Myenghuy 김명희 (1984) 「국어 동사구 구성에 나타나는 의미 관계 연구」이화여자대학교 박사학위논문  
Kim, Senghwa 김성화 (2003) 『국어의 상 연구』(개정판)한신문화사  
Se, Cengswu 서정수 (1978) 「국어의 보조동사」『언어』3-2  
Son, Seymotol 손세모돌 (1996) 『국어 보조용언 연구』한국문화사

キーワード：ko malta形式 対照言語学 出来事の在り方 話し手の感情・評価

(JEONG Saehwan)



## 執筆者紹介（執筆順）

江口 伸吾	島根県立大学総合政策学部	准教授（国際関係論・中国地域研究）
楊 華	中国中央财经大学财政公共管理学院	専任講師（経済学）
張 忠任	島根県立大学総合政策学部	教授（経済理論・地方財政論）
于 臣	島根県立大学北東アジア地域研究センター	研究助手（経済思想史・教育思想史）
野村 泰弘	島根県立大学総合政策学部	教授（民法）
岩本 浩史	島根県立大学総合政策学部	准教授（行政法）
山田 昌史	島根県立大学総合政策学部	専任講師（英語学）
鄭 世桓	島根県立大学総合政策学部	非常勤講師（韓国語）
	島根県立大学北東アジア地域研究センター	研究助手（日韓対照言語学）

## 編集委員

赤坂 一念	島根県立大学研究活動・総合政策学会委員会	委員長
沖村 理史	〃	委員（編集長）
江口 伸吾	〃	委員

## 総合政策論叢 第14号

2008年2月25日発行

発行人 島根県立大学総合政策学会

編集人 島根県立大学研究活動・総合政策学会委員会

〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2

Tel：0855-24-2200

<http://www.u-shimane.ac.jp>

印刷所 ㈱谷口印刷

〒690-0133 島根県松江市東長江町902-59

# Shimane Journal of Policy Studies

Vol. 14

February 2008

## Articles

- |   |                            |     |
|---|----------------------------|-----|
| The Structure of Contemporary Chinese Political Society from<br>the Perspective of Association Theory: A Comparative Analysis of<br>Structural Change in Northeast Asia | EGUCHI Shingo              | 1   |
| A Study on Introduction of Estate Tax to China  | YANG Hua<br>ZHANG Zhongren | 17  |
| A Study on the Thoughts about "Gi" and "Li" of the Merchants<br>in Ming and Qing Dynasty, China: The Case Study of "Hui Shang"  | YU Chen                    | 29  |
| The Legal Nature of the Land Reistration of "Shidai-Hachimangu":<br>Ownership Rights or Common Rights   | NOMURA Yasuhiro            | 43  |
| The PFI Prison and Liability to Compensate  | IWAMOTO Hiroshi            | 77  |
| Typological Analysis on the Aspectual Properties of Predicates:<br>A Morphological Perspective  | YAMADA Masashi             | 93  |
| A Meaning and Use of "ko malta" Form of the Korean Auxiliary Verb:<br>From a Point of View of Comparative Linguistics   | JEONG Saehwan              | 115 |

The University of Shimane

Faculty of Policy Studies

2433-2, Nobara-cho, Hamada-city, Shimane 697-0016, JAPAN

Tel : +81-855-24-2200

[http : //www.u-shimane.ac.jp](http://www.u-shimane.ac.jp)

